

病害虫発生予察情報

病害虫発生予察情報(美濃地域) 4月予報

【小麦】赤かび病

昨年、一部の地域で発生がありました。1回目の防除を「開花始め」、2回目の防除を「1回目の10日後」に行ってください。ほ場での生育状況をよく観察し、防除時期を逃さないよう注意しましょう。

【施設野菜】微小害虫

イチゴほ場において、ハダニ類及びアザミウマ類の発生が平年より多くなっています。また、今後の気温が平年より高いと予測されるため、増加が予想されます。発生初期の防除を徹底しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（4月）

＜作物及び果樹＞

作物	病害虫名 (防除適期)	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	ヒメトビウンカ	少						＜第1世代幼虫発生(小麦)＞	・小麦ほ場の防除を行う。
小麦	生育	やや早	＜出穂＞						(さとのそら)
	赤かび病	やや多	＜感染＞						・赤かび病 高温多雨の気象条件で発生が助長される。防除適期である開花始めとその10日後の防除を徹底する。
	うどんこ病	少	＜発生量増加＞						・窒素質肥料の過用を避ける。
	防除適期		▲～赤かび病・うどんこ病						
カキ	生育	並						＜新梢へ移動＞	(富有) 発芽期 3/14 (平年 3/15)
	フジコナカイガラムシ	並						▲～フジコナカイガラムシ	・昨年、多発したほ場では注意する。薬剤防除は、散布ムラがないよう丁寧に行う。
ナシ	生育	やや遅							(幸水) 発芽期 3/17 (平年 3/13)
	黒星病	やや多	＜感染＞						・開花期(平年4/10)に降雨が多いと感染が拡大するため防除を行う。
	赤星病	並	＜感染＞						
	防除適期		▲～赤星病・黒星病						

注1) ▲：防除適期

＜施設野菜＞

作物	病害虫名	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測	3月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	やや少	一部調査ほ場で発病が認められる。施設内が発生適温となるため、発病の増加が予測される。	やや少	・アザミウマ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	うどんこ病	やや少	一部調査ほ場で発病が認められる。施設内が発生適温となるため、発病の増加が予測される。	少	
	ハダニ類	多	多発ほ場が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	やや多	・ハダニ類 ほ場内をよく観察し、天敵導入後もハダニ類の発生が抑制できない場合には薬剤防除を実施する。薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	多	多発ほ場が認められる。今後、気温の上昇により増加が予測される。	多	
	コナジラミ類	やや少	一部のほ場で発生が認められる。気温の上昇により増加が予測される。	やや少	
トマト	灰色かび病	やや少	調査ほ場で発病は認められないが、施設内が発生適温となるため、発病の増加が予測される。	少	・コナジラミ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	コナジラミ類	並	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温の上昇により、増加が予測される。	少	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種では今後も発生は少ないと予測されるが、一部の罹病性品種では発生すると予測される。	少	・べと病 曇雨天が続くと発生量が増加するため、薬剤防除を行う。
	うどんこ病	多	調査ほ場で発病が認められる。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	多	・アザミウマ類(ミナミキイロ) キュウリ黄化えそ病を起こすMYSV(メロン黄化えそウイルス)を媒介するため、低密度でも薬剤防除を行う。
	べと病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種では今後も発生は少ないと予測されるが、一部の罹病性品種では発生すると予測される。	少	
	アザミウマ類	並	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により発生が予測される。	少	
	コナジラミ類	並	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により発生が予測される。	少	

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 調査品種 イチゴ：濃姫、美濃娘 トマト：麗妃、りんか409、かれん キュウリ：ニーナ

数値データ

(岐阜・西濃地域3月調査)

イチゴ				
灰色かび病	(発病果率)	0.11	(0.15)	
うどんこ病	(発病株率)	0	(0.07)	
ハダニ類	(寄生株率)	20.0	(13.2)	
アザミウマ類	(寄生花率)	36.5	(10.6)	
コナジラミ類	(寄生株率)	0.67	(0.93)	
トマト				
灰色かび病	(発病果率)	0	(0.29)	
灰色かび病	(発病株率)	0	(2.2)	
コナジラミ類	(誘殺頭数)	0.14	(1.48)	
キュウリ				
褐斑病	(発病葉率)	0	(0.0)	
うどんこ病	(発病葉率)	2.3	(1.2)	
べと病	(発病葉率)	0	(0.0)	
アザミウマ類	(寄生頭数/100葉)	0	(0.0)	
コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0	(0.0)	

注1) ()内数値は平年値 果率、株率、花率及び葉率は%

注2) イチゴ、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注3) トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査データ (3月1半旬~3半旬までの累計誘殺数)

果樹 カメムシ類

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (頭)

調査場所	調査年度		平年
	R3	R2	
岐阜市 東秋沢	0	0	1.6
〃 彦坂川南	1	0	1.2
海津市 南濃町奥条	0	0	1.6
大野町 牛洞	0	0	0.4
本巣市 法林寺	0	0	1.1
美濃市 曾代	0	1	2.3
美濃加茂市 山之上西洞	1.3	0	1.7
〃 山之上中之番	0	0	1.4
中津川市 落合	0	0	0.3
〃 阿木	2	0.5	0.7
恵那市 武並	1	0	—
平均	0.5	0.1	1.2

注1) 令和4年2月落葉採取

注2) 調査地点あたり落葉を50L採取し、ハンドソーティングにより調査

野菜類 微小害虫

ヒラズハナアザミウマは、イチゴ果実に傷をつけるため、問題となります。

ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病を起こすMYSV (メロン黄化えそウイルス) を媒介し、低密度でも大きな被害を与えます。

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ退緑黄化病のウイルスを媒介するため、本虫の活動が活発になるにつれてウイルス病の増加が懸念されます。

今後は気温の上昇とともに、これら微小害虫の増加が予測されるため、施設内をよく観察し、防除を行ってください。



ヒラズハナアザミウマ



タバココナジラミ



ミナミキイロアザミウマ

本年2月に県下11地点で実施したチャバネアオカメムシの成虫越冬量調査では、4地点で越冬成虫を確認し、平均で0.5頭でした (左表参照)。

越冬成虫数が多い場合は、4月から7月にかけて発生する越冬世代の果樹園への飛来数が多くなる傾向にありますが、本年の越冬成虫数は昨年より多いものの、平年よりは少ない結果となっています。

本虫の越冬地に近い山際のほ場では、加害を受ける可能性があるため注意しましょう。

=施設栽培の病害虫防除について=

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 3月24日)

向こう1か月の気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されます。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
QRコード